

短歌 (投稿順)

新嘗祭降り続く雨肌寒く皇帝ダリアも下向き淋し
 米寿とぞ告げてはおのれ励まして恵みの多き一年なりき
 目に留まる紙面「五行歌」知人の名さつそく電話し久に声聞く
 大太鼓番待つ間彫物の隙間から見る秩父夜祭
 「戦」の文字で締めたるこの一年令和五年は「平和」の文字に
 頑張れば笑顔溢れるその美味さ心も弾む葎田のピッツァ
 古新聞を捨てむとして目に留めたる歌壇俳壇を黙々と読む
 北陸の豪雪地帯悲惨なり備への教訓我が身も思ふ
 わが庭に千の光となりし母が慈しむかに帰り花咲く
 ドラマでのトラベルナースガン患者名前は四方田ガンバレ見てる
 カタールに日の丸揺れて絶望は歓喜に変はり列島に満つ
 妹が祝にくれた靴履けば出かける朝も足元温し
 またひとつ年を重ねて年迎へ願い新たに賽銭ささげ
 父母の居て昭和の正月懐かしき夢より覚めて暫し偲びぬ
 年明けて新しき手帳開きみて趣味の日程書き込んでみる

皆野 戸塚喜久雄
 三沢 眞下 杏子
 皆野 引間 万亀
 皆野 大澤 貴夫
 皆野 根岸 詩子
 皆野 石原 達也
 三沢 新井 叶子
 三沢 新井 民子
 皆野 萩原 初恵
 上日野沢 四方田利男
 皆野 打木 昭廣
 下日野 新井 節子
 国神 藤原マキ子
 下日野沢 浅見 豊子
 皆野 村田ハツ代

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 17句

あはれなり定年前の春支度
 (評)長い間教師として慈しんだ多くの生徒の卒業を見送って来た作者です。この春は定年となり教師卒業の年。生徒と共に喜び苦しみ努力を重ねた日々を思い、しみじみ感慨深く春を迎える準備をしています。古語の「あはれ」の表現がとても良く心に沁みます。二句目、仲睦まじい暮らしを経て家族三人を天国に送り、一人になってしまった。広い家をきれいにし、新しい年を迎える用意に頑張っている作者。三人の遺影が優しく見守ってくれます。今年も健康で楽しく作句して下さい。三句目、空気の澄んだ冬の夕陽は大きく映全体を輝やかせてくれます。もつとこの光景を眺めていたい気持ち同感です。

皆野中 小菅恭青史

年用意遺影三人に見守られ
 三沢 眞下 杏子
 背を伸し早春の朝天を仰ぐ
 皆野 萩原 初恵

山里の沈む陽惜しむ暮早し
 三沢 新井 民子
 冬暁の鳥らの命空にあり
 国神 藤原マキ子

行き場なき苛立ち抱えオリオン座
 皆野 太幡琉美花
 雲千支の兎に見立て初散歩
 皆野 引間 千鶴

極月や言はぬだけの苦二つ三つ
 三沢 新井 叶子
 慈母観音乳やる胸よ冬青の実
 下日野沢 小原 和夫

ケーキ焼く米寿の母よ冬ぬくし
 皆野 豊田喜美恵
 華やかに飾る玄関松竹梅
 皆野 村田ハツ代